



まちづくりの方針

私たちは「未来を創る人を育み、だれもが学び、楽しみ続けられるまち」をめざします

G1

基本施策

長崎のまちを愛し、新たな時代を生き抜く子どもを育みます

個別施策

- G1-1 「確かな学力」の向上を図ります
- G1-2 健やかな心と体を育成します
- G1-3 家庭・学校・地域の連携による教育の充実を図ります
- G1-4 安全・安心に学べる教育環境を整備します

G2

基本施策

だれもが生涯を通じていきいきと学べる社会をつくります

個別施策

- G2-1 学びの場と機会の充実を図ります
- G2-2 能力や経験が社会に活かされる仕組みをつくります

G3

基本施策

スポーツ・レクリエーションの振興を図ります

個別施策

- G3-1 スポーツ・レクリエーションをする場と機会の充実を図ります
- G3-2 スポーツをみる機会の創出と競技者の支援を図ります

G4

基本施策

芸術文化あふれる暮らしを創出します

個別施策

- G4-1 芸術文化に触れる機会を創出します
- G4-2 市民の自主的な芸術文化活動の活性化を図ります

基本計画で定めた各種施策を達成するための具体的な事業計画を示した「実施計画書」はこちら



長崎のまちを愛し、新たな時代を生き抜く 子どもを育みます

学校教育課

2025年度にめざす姿（なにか、どうなっている）

対 象	意 図
子どもが	長崎のまちを愛する気持ちを持ち、変化に対応しながら、新たな時代を強く生き抜く力を身に付けている。

めざす姿を達成するための個別施策

- G1-1 「確かな学力*」の向上を図ります
- G1-2 健やかな心と体を育成します
- G1-3 家庭・学校・地域の連携による教育の充実を図ります
- G1-4 安全・安心に学べる教育環境を整備します

成果指標

成果指標	基準値	目標値
夢や目標を持っている小中学生の割合	77.6% (R元年度)	82.6% (R7年度)
長崎のまちや自分の住んでいる地域が好きだと思っている小中学生の割合	92.7% (R2年度)	95.2% (R7年度)
地域の行事に参加している小中学生の割合	56.2% (R元年度)	61.2% (R7年度)
ICT*の活用によって、学習に取り組む意欲・態度が高まった小中学生の割合	73.9% (R2年度)	80.0% (R7年度)

関連するSDGs



* 確かな学力（参照 P35）

* ICT (Information & Communications Technology)
(参照 P24)

2025年度にめざす姿（なにか、どうなっている）

対 象	意 図
子どもが	自ら学び、自ら考え、判断して主体的に行動できる「確かな学力」を身に付けている。

現状分析と取組方針

I うまくいっていること、強み、チャンス

うまくいっていること

- 全国、県、市の学力調査結果の分析に基づき、小3から中3までの7か年にわたり、個々の児童生徒の課題に沿った学習指導を行っている。
- 教職員によるデジタル教科書等ICT*活用が進んでいる。
- A L Tの雇用数は充実しており、その活用により、英語を用いてコミュニケーションをとる機会が増え、英語力の向上につながっている。
- すべての市立小学校で「長崎寺子屋事業*」を実施することで、学習支援の充実が図られている。
- 就学援助の新入学用品費について入学前支給を実施するなど、制度の充実を図っている。

チャンス

- 児童生徒に1人1台の学習者用コンピュータと高速通信環境が整い、ICTを活用した教育が可能となっている。

II うまくいっていないこと、弱み、脅威

うまくいっていないこと

- 学力調査の結果が目標値を下回っているものもあるため、その結果を分析し、改善へのプラン策定を各学校で行っているが、プランを実践し成果につなげる部分については全国学力学習状況調査*の「学校質問紙調査」の結果が全国や県の数値を下回っており、不十分である。
- 学校への学習支援サポーター*の役割等の周知が不十分であるため、教員が子どもたちの実態に合うように効率よく学習支援サポーターを活用できていない。



III 取組方針

① 学力向上にかかる学校訪問指導や研修会の実施

- 基礎的基本的な学習事項の重点的な指導や学習指導要領に沿った授業改善が充実するよう、研究指定校*や計画訪問校*への訪問指導や学力向上にかかる研修会を実施します。また、学力向上プランを活用した教育実践を行うよう各学校への指導を徹底します。

② ICT機器の効果的な活用

- 1人1台学習者用コンピュータをはじめ、ICT機器の効果的な活用を図るために、各学校での教職員への研修を進めていくとともにフロンティアGIGAスクール*での実践を各学校に広めます。

③ 国際理解教育の充実

- 国際理解教育の充実のため、「あじさいEnglish Day」や「あじさいEnglish Speech Contest」などのイベントやコンテスト、国際交流体験を実施するとともに、A L Tの効果的な配置を行います。

* 確かな学力（参照 P35）

* ICT（Information & Communications Technology）（参照 P24）

* 長崎寺子屋事業

基礎学力や学習習慣が身についた子どもを育てるために、すべての小学校において放課後等を利用し、地域の特色や学校の実態に応じて地域人材や大学生を活用した学習支援を実施する事業のこと。

* 全国学力学習状況調査

文部科学省による学力や学習状況に関する調査。全国全ての小学6年生と中学3年生を対象に、国語と算数・数学の知識力と知識活用力の調査、学校や児童生徒への質問紙調査が行われる。

* 学習支援サポーター

授業等で児童生徒の理解を促すよう声かけをしたり、宿題等のまるつけを行う等、学校の教育活動を支援する地域人材のこと。

* 研究指定校

学習指導要領に基づく教育課程の円滑な実施のために特に重要となる課題について、学習指導の場面のみならず人権教育、平和教育、安全教育等を含めた教育活動全般を通して、理論的研究及び授業実践を中心に据えた実証的研究を行うために、国や県、市が指定する学校のこと。

* 計画訪問校

学校の施設、環境、児童生徒の様子、教職員の勤務状況を直接見聞したり、校長の学校経営の状況を把握し、指導助言を行うために教育委員会が市立小・中学校及び長崎商業高校を対象に計画的に訪問する学校のこと。毎年10校程度が対象となる。

* フロンティアGIGAスクール

1人1台学習者用コンピュータの効果的な活用について研究実践する学校のこと。市立小学校4校、市立中学校3校を指定している。

④長崎寺子屋事業の充実

- 長崎寺子屋事業*の実施状況を確認するとともに、良好な活用事例を紹介するなどして学習支援サポーターの活用の充実を図ります。

⑤就学援助の実施

- 経済格差に起因する学力の格差が生じないよう、経済的支援が必要な児童生徒の保護者に対する就学援助を行います。

関連するSDGs



関連する計画等

- 長崎市教育振興基本計画



あじさいEnglish Speech Contest



1人1台学習者用コンピュータの活用

* 長崎寺子屋事業 (参照 P193)

2025年度にめざす姿（なにが、どうなっている）

対 象	意 図
子どもが	長崎を愛し、やさしく、たくましく生きるための豊かな心や体力を身に付けている。

現状分析と取組方針

I うまくいっていること、強み、チャンス

- うまくいっていること
- 学校における図書1年間の平均貸出冊数が増えたり、乳幼児向けの読み聞かせなどの事業が充実したりするなど、読書活動の推進が図られている。
 - 各学校における体力向上アクションプラン*の取組みから、柔軟性が高くなるなどの成果が出てきている。
 - 長崎の宝発見・発信学習*や日吉自然の家での宿泊学習、長崎商業高校での職業講話等を通して、キャリア教育*の充実が図られている。
 - 学校における「人権教育」「道徳教育」により児童生徒に生命や人権を尊重しようとする心が育っている。
 - 配慮が必要な児童生徒に対しては、障害や特性に応じた特別支援学級や通級指導教室を設置し、充実した支援を受けられるようにしている。
 - 「被爆体験の継承」「平和の発信」「平和の創造」の「3つの柱」による新しい平和教育について、すべての学校で実践が図られた。

II うまくいないこと、弱み、脅威

- うまくいないこと
- 義務教育における平和教育の更なる充実をめざして、「他者の意見を尊重しながら自分の言葉で平和を語り、行動できる児童生徒の育成」を目的として作成した平和教育手引書*に基づいた平和教育の浸透が、実践協力校による授業公開にて順次、進めている段階のため十分ではない。
 - 調べ学習等での図書館利用や、学校図書館司書の授業への関わりについて、学校による温度差がある。
 - 親子で絵本を読むことが子どもの豊かな感性や心を育み、生涯にわたる読書習慣へつながることを周知する取組みを、4か月健診会場で実施しているが、受診者に時間的余裕がないこともあり、啓発が十分にできていない。
 - 体力向上の取組みが一過性のものとなっている。また、組織的な取組みとして定着していない。
 - 子どもたちが社会的・職業的自立に向けて、ふるさととの課題などの解決を自分事として体験する場、体験したことを活かしたりするキャリア教育の場が、地域において不足している。
 - 違いを認め、多様性を尊重する人権教育の推進が課題となっており、ジェンダー*平等や性の多様性の教育はまだ広がりが不十分である。
 - 担任一人では対象児童生徒に十分な支援が困難と考えられる場合に配置する特別支援教育支援員の確保が難しい。



* 体力向上アクションプラン

新体力テストの結果をもとに、児童生徒の実態に応じて、運動への意欲の向上と運動時間の確保へつなげ、体力の向上を図ることや、運動やスポーツに進んで取り組む児童生徒の増加を目的とした各学校ごとの計画。

* 長崎の宝発見・発信学習

長崎の歴史や世界遺産等を学習する活動を通して、そのよさを実感し、ふるさと長崎に誇りを持ち、長崎が持つ世界的な価値を発信できる児童生徒の育成を目的とした学習のこと。

* キャリア教育（参照 P154）

* 平和教育手引書

学校で平和教育を実施する際に参考となるように、その基本方針や授業の展開例等を示したものを。

* ジェンダー（参照 P12）

Ⅲ 取組方針

①新しい平和教育の推進

- 「平和教育手引書*」に基づいた新しい平和教育について、関係機関や関係団体と連携を深めながら、さらに推進します。

②読書活動の推進

- 学校図書館司書が積極的に授業に関わり、読書活動の質を高めることができるよう、市立図書館と連携して研修会や訪問指導を行います。
- 就学前の子どもや産前期を含む両親に対しては、子どもの生涯にわたる読書習慣へつなげるよう絵本の活用などについて啓発活動を行います。

③体力向上の取組み

- 各学校の体力向上アクションプラン*について再考し、評価の低い子どもを高めるための取組みになるようにします。

④キャリア教育の推進

- 「小学生まちづくりアイデアコンテスト*」や「中学生議会*」において、未来のまちづくりについて考える場を設け、小中学生もまちづくりの主役であるという意識を育て、長崎市版キャリア教育「長崎LOVERS育成プログラム*」を推進します。

⑤人権教育の推進

- いじめの未然防止を含めて、違いを認め多様性を尊重する人権教育の推進を図ります。
- ジェンダー*平等や性の多様性の教育については、情報を収集し、その取組みを広げます。

⑥特別支援教育の推進

- 幼児、児童生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、適切な指導と必要な支援を行います。

関連するSDGs



関連する計画等

- 長崎市教育振興基本計画
- 長崎市子ども読書活動推進計画



宿泊体験学習（農業体験）



小学生まちづくりアイデアコンテスト

* 平和教育手引書（参照 P195）

* 体力向上アクションプラン（参照 P195）

* 小学生まちづくりアイデアコンテスト

長崎市内すべての小学校5・6年生を対象にまちづくりのアイデアを募集し、コンテストを行うもの。応募作品から優秀賞20作品を選考し、発表会で市長に提案する。

* 中学生議会

各市立中学校から1名ずつが参加し、市議会議場でいじめ問題や未来の長崎のまちづくり等の議題について、議会形式で話し合いを行うもの。

* ジェンダー（参照 P12）

* 長崎LOVERS育成プログラム

長崎のまち（社会）を支える「担い手」を育てていくため、学校、家庭、地域が一体となって、児童・生徒に様々な価値観や生き方を学ぶ機会を提供することにより、児童・生徒が社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力や、世界的な視点をもって地域を支える資質・能力を身に付けるとともに、長崎のまちを愛する気持ちと、それを行動に移す力を養う教育。

2025年度にめざす姿（なにが、どうなっている）

対象	意図
子どもが	家庭、学校、地域の連携によって健やかに育っている。

現状分析と取組方針

I うまくいっていること、強み、チャンス

うまくいっていること

- 各地域の青少年育成協議会*に対し、地域における青少年健全育成活動への支援を行うことで、地域の大人の連携が進んでいる。
- 学校公開の推進について、コロナ禍以前まではすべての小中学校で土曜授業を実施し、多くの保護者や地域の方が学校を参観し、家庭や地域と学校との連携が進んでいる。
- ファミリープログラム*やメディア研修会*等の実施により、学校と保護者との間でメディア利用についての認識が深まり連携が進んでいる。
- 幼保小連携*については、中学校区を単位としたブロックごとの協議を実施することで、関係する子どもたちについての情報交換が進んでいる。

II うまくいっていないこと、弱み、脅威

うまくいっていないこと

- 地域の大人の連携については、青少年健全育成活動に参加する会員の固定化や減少がみられ、活動が縮小している。
- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、地域と学校との交流機会が減少している。
- 各家庭におけるメディア使用のルールの有無について、保護者と子どもたちの認識に違いがあり、双方が十分理解した上でのルール作りとはなっていないことが推察される。



III 取組方針

①青少年育成協議会における事業の活性化

- 青少年育成協議会の活動を支援することで事業の活性化を図るとともに、活動事例発表会等を通して事業の積極的な実施について働きかけを行います。

②学校と地域の連携の推進

- 学校と地域が一体となって子どもを育むため、授業や催しに保護者や地域住民がゲストティーチャー*やボランティアとして関わる取組みなどにより、学校と地域の連携を図ります。
- 学校への理解と協力を深めるため、土曜授業を含めた学校公開を推進し、多くの保護者や地域住民に学校を参観してもらう場を増やします。

③学校と家庭の連携の推進

- 家庭教育力の向上を図るため、ファミリープログラムを取り入れた子育て講座を充実します。
- インターネット上の有害情報や危険性から子どもを守るため、長崎市PTA連合会と連携して、スマートフォン等の情報端末機の使い方のルールを定着させます。

④幼保小連携の推進

- 中学校区を単位としたブロックごとの幼保小連携の取組みが進んでいることから、各ブロックの取組みや「あ・は・は運動*」についても取組みの趣旨を再確認してその継続・徹底を図ります。

* 青少年育成協議会

地域住民の総意を集結して、地域ぐるみによる青少年の健全育成及び、非行・事故防止を計画的かつ具体的に推進する社会教育関係団体。

* ファミリープログラム

保護者同士が交流し、子育てについての悩みや体験、よりよいPTA活動などを話し合うなかで、共感があったり、子育てのヒントを学んだり、仲間づくりを醸成したりする参加型学習プログラムのこと。保護者が集まるPTA研修会や学級懇談会などの機会に実施され、県の認定を受けたファシリテーター（進行役）がプログラムを進行。

* メディア研修会

PTAや学級懇談会などで、保護者がスマホやゲーム、インターネットなどのメディア利用についてのメリット・デメリットについて学ぶ研修会。

* 幼保小連携

幼稚園や保育所、認定こども園、小学校、教育委員会等関係機関が連携して情報交換や研修等を実施し、子どもが幼稚園や保育所を卒園した後、小学校教育に円滑に進めるようにすること。

* ゲストティーチャー

自身が持つ専門的な知識や豊富な経験を子どもたちに伝えるために、学校で実施される授業に招かれた地域住民等一般市民。

* あ・は・は運動

どの幼稚園や保育所、認定こども園、小学校でも同じ言葉で子どもたちに呼びかけることで、長崎の子どもたちが健やかに育つことを心から願い、「長崎っ子の約束」として示したもの。「あ：あいさつ・へんじ げんきよく」「は：はやね・はやおき・あさごはん」「は：はさもののそろえ いいきもち」

関連するSDGs



関連する計画等

- 長崎市教育振興基本計画



ファミリープログラム



メディア研修会

2025年度にめざす姿（なにが、どうなっている）

対 象	意 図
子どもが	安全・安心な環境で学んでいる。

現状分析と取組方針

I うまくいっていること、強み、チャンス

うまくいっていること

- 校舎等の耐力度調査を実施し、各学校の健全度を指標化することで、適切な時期に改修・整備ができるよう長寿命化計画を策定している。
- 老朽化した学校の改築・大規模改造を計画的に実施しており、教育環境の改善が図られている。
- 普通教室及び理科室・音楽室等の一部の特別教室への空調設備の整備を実施し、学習環境が改善している。
- 学校敷地に設置している建築基準法に不適合なブロック塀等について、フェンスへの取り替えなどの改修を行い、安全性の向上が図られている。

II うまくいっていないこと、弱み、脅威

うまくいっていないこと

- 学校の小規模化*が進んでおり、子どもたちが集団生活の中で活気に満ちた活動ができる学校規模を確保する必要がある。
- 保有する小中学校施設は、全体の約3割が築50年以上を経過しており、築40年以上の建物も含めると全体の約半分を占め、老朽化が進んでいる。

脅威

- 外壁剥落や法面崩落などの災害等被害に対する防災機能強化が求められている。
- 一部の地域において、団地開発やマンション建設などに伴う児童生徒数の増加により、教室不足が懸念される学校がある。



III 取組方針

①安全・安心な教育環境の確保

- 長寿命化計画に沿って各学校の改築や大規模改造を実施し、老朽化対策を推進します。
- 教育環境の向上と施設の最適化を両立した取組みを推進します。
- 外壁改修や法面改良を計画的に実施し、安全安心な教育環境を確保します。

②学校規模の適正化*と適正配置の推進

- 次代を担う子どもたちの教育効果を高めるため、学校規模の適正化と適正配置を図ります。

関連するSDGs



関連する計画等

- 長崎市学校施設の長寿命化計画
- 長崎市立小学校・中学校における規模の適正化と適正配置の基本方針

* 学校の小規模化

長崎県の定める学級編制基準により編制した学級数が、小学校で12から18学級、中学校で9から18学級を望ましい学校規模と位置づけており、少子化等で児童生徒数が減少し、下限の学級数を下回る学校規模となる状態。

* 学校規模の適正化

小規模化した学校について、通学区域の見直しや学校の統廃合により、望ましい学校規模の確保をめざすこと。

2025年度にめざす姿（なにか、どうなっている）

対 象	意 図
市民が	自ら学ぶとともに、学びを通して仲間づくり、 地域づくりを行っている。

めざす姿を達成するための個別施策

G2-1 学びの場と機会の充実を図ります

G2-2 能力や経験が社会に活かされる仕組みをつくりま

成果指標

成果指標	基準値	目標値
自発的に学びに取り組んでいる市民の割合	38.4% (R元年度)	44.0% (R7年度)
生涯学習施設等の利用者数	2,680千人 (H28～H30年度平均)	2,802千人 (R7年度)
学びを通して仲間づくり、地域づくりを行っている市民の割合	33.9% (R元年度)	40.0% (R7年度)

関連するSDGs



2025年度にめざす姿（なにが、どうなっている）

対 象	意 図
市民が	様々な場所で集い、交流するとともに、ライフステージに応じた学習プログラムや現代的課題・地域課題などを学んでいる。

現状分析と取組方針

I うまくいっていること、強み、チャンス

うまくいっていること

- 公民館において、市民の関心がある多様な講座を開催することで、課題解決のきっかけづくりや地域住民の教養の向上、郷土愛の醸成が図られている。
- 科学館などの学習・体験施設において、見て触れて学習できるイベントの開催により、学びの環境、機会の充実につながっている。
- 市民や地域に役立つ情報拠点としての市立図書館では、主催事業の開催に合わせた関連書籍を紹介することで、貸出者数や貸出冊数の増加につながっている。
- 市が大学に運営委託している学生ボランティアシステム「游学のまちdeやってみゅーで” U-サポ” *」を活用し、多くの長崎地域の大学生がボランティア活動により実社会で役立つ経験やスキルを学んでいる。

II うまくいっていないこと、弱み、脅威

うまくいっていないこと

- 公民館において、各種講座を行っているが、参加者が固定化している傾向がある。
- 科学館などの学習・体験施設におけるイベント内容に偏りがみられ、幅広い分野での学びになっていない。

脅威

- 図書館の利用者は増加しているものの、児童書の貸出数の増加に比べ、学生や若者向けの一般書の貸出数が伸びていない現状から、若い世代の読書離れが進行している傾向があると考えられる。



III 取組方針

①市民の学習機会の充実

- 市民が気軽に集まれる学習機会の充実を図るとともに、新しい生活様式を踏まえたオンラインでの学習の機会の充実を図ります。
- 科学館や恐竜博物館などの学習・体験施設における、見て触れて学べる取組みについて、内容の充実を図ります。
- 生涯にわたる読書習慣につなげるため、図書館での読み聞かせ、図書の展示などの主催事業の充実を図ります。

②学生・若者への体験活動支援

- 多様な経験や交流を通じた学生の学びの充実を図るため、地域でのボランティアを希望する学生を支援します。
- 若者が実現したいアイデアや企画にチャレンジできる仕組みづくりに取り組みます。

関連するSDGs



公民館講座



恐竜博物館常設展示室



若者がチャレンジできる仕組みづくり（ながさき若者会議）

* 游学のまちdeやってみゅーで” U-サポ”

ボランティア参加を希望する学生と地域でボランティアの機会を提供する団体をつなぐ取組み。長崎大学のボランティア活動支援「やってみゅーでスク」の仕組みを、平成23年度から長崎市の事業（通称：U-サポ）として長崎地域の7大学に拡大して実施している。

2025年度にめざす姿（なにか、どうなっている）

対 象	意 図
市民が	学びを通して習得した能力や経験を、地域の学習活動等に活かしている。

現状分析と取組方針

I うまくいっていること、強み、チャンス

うまくいっていること

- 公民館支援ボランティア*活動において、活動者自らが企画・運営した講座を実施することで、自身のモチベーションアップ、スキルアップにつながっている。
- 図書ボランティアによる書架の整理や図書の修理、読み聞かせ活動を通して、より良い図書館運営につながっている。

II うまくいっていないこと、弱み、脅威

うまくいっていないこと

- 公民館支援ボランティア活動に対する関心を喚起させることが十分ではなく、登録者が固定化している。
- 学習活動ボランティア登録後に活動できる機会が少ない。



III 取組方針

① 学習活動ボランティアへの活動機会の提供

- ボランティアへの関心を高めるため、活動内容の紹介を随時行うとともに、ボランティアの能力や経験が活かせる機会の提供に努めます。
- 図書ボランティアの活動を通じて、より良い読書環境をつくるため、地域社会に貢献しようとする市民が活動できる機会の提供に努めます。

関連するSDGs



講座開設時の保育ボランティア

* 公民館支援ボランティア

公民館事業をボランティアとして支援する者をいう。公民館ごとの登録制で、その活動内容は、①講座等の受付及び案内、②公民館外における活動に係る受講者の誘導及び安全確保、③講座等の企画及びその補助など。

G3 スポーツ・レクリエーションの振興を図ります

スポーツ振興課

2025年度にめざす姿（なにが、どうなっている）

対象	意図
市民が	いつでも、どこでも、いつまでも スポーツ・レクリエーションに親しんでいる。

めざす姿を達成するための個別施策

G3-1 スポーツ・レクリエーションをする場と機会の充実を図ります

G3-2 スポーツをみる機会の創出と競技者の支援を図ります

成果指標

成果指標	基準値	目標値
運動・スポーツ実施率	38.5% (R元年度)	65.0% (R7年度)
市営スポーツ施設の利用者数	1,689,128人 (R元年度)	1,980,407人 (R7年度)
市民応援DAYの応募件数	2,174件 (R元年度)	2,717件 (R7年度)

関連するSDGs



市民体育・レクリエーション祭



スポーツ少年団活動

2025年度にめざす姿（なにか、どうなっている）

対 象	意 図
市民が	日頃から、スポーツやレクリエーションに親しんでいる。

現状分析と取組方針

I うまくいっていること、強み、チャンス

うまくいっていること

- 各競技団体を束ねている長崎市スポーツ協会*との連携が図られている。
- スポーツ施設の維持管理が適切になされている。
- 公共施設案内・予約システム*の適切な運用により、施設予約等の利便性が向上している。

II うまくいっていないこと、弱み、脅威

うまくいっていないこと

- 令和元年度の市民意識調査によると、成人の週1回以上スポーツを実施している市民の割合は38.5%で、日頃から運動やスポーツを実施している市民の割合は、依然として低い状況となっている。
- スケートボードなどの新たな競技種目の流行等による市民のスポーツニーズの多様化に十分な対応がとれていない。



III 取組方針

① 各種競技団体等との連携

- 市民が気軽にスポーツやレクリエーションに親しめるように、各競技団体、長崎市スポーツ協会と連携し、スポーツイベントを推進します。
- スポーツ少年団*及びスポーツ推進委員*の活動を推進し、スポーツやレクリエーションへの関心を高める取組みを進めます。

② スポーツ環境の整備

- 多様化するスポーツニーズの把握に努め、必要かつ適切なスポーツ環境の整備を進めます。

関連するSDGs



関連する計画等

- スポーツ基本計画
- 長崎市スポーツ推進計画
- 公共施設マネジメント推進計画



長崎新春駅伝大会



レクリエーション・スポーツ教室

* 長崎市スポーツ協会

長崎市におけるスポーツの普及・振興等に関する事業を行い、市民の体力向上と健康増進に寄与することを目的として、加盟団体の育成強化と連絡調整に関する事業やスポーツ大会及びスポーツ教室の開催等スポーツの普及、競技力向上に関する事業などを実施する公益財団法人。

* 公共施設案内・予約システム

インターネットに接続されたパソコンやスマートフォン、携帯電話等から、市内の公共施設（スポーツ施設、文化施設）の空き状況の確認や予約申し込み等ができるサービス。

* スポーツ少年団

スポーツ活動を主体として、野外レクリエーション活動、社会奉仕活動、交流活動等のさまざまな活動を通して青少年の健全育成を図る、日本最大の青少年スポーツクラブ。

* スポーツ推進委員

地域スポーツの推進のため、各種事業の実施に係る連絡調整・実技指導・助言を行う非常勤職員。

2025年度にめざす姿（なにが、どうなっている）

対 象	意 図
市民が	スポーツへの関心を高めるとともに、 全国大会等において高い競技力を発揮している。

現状分析と取組方針

I うまくいっていること、強み、チャンス

うまくいっていること

- 長崎市をホームタウンとするプロサッカーチーム「V・ファーレン長崎」との地域交流による応援機運を高める取組みなどの連携が図られている。

強み

- ラグビーワールドカップ2019日本大会において、スコットランド代表チームのキャンプを誘致し、市民との交流を通してスコットランドラグビー協会との良好な関係を築くことができている。

チャンス

- 令和2年に長崎市をホームタウンとするプロバスケットボールチーム「長崎ヴェルカ」が誕生した。
- （株）ジャパネットホールディングスが長崎スタジアムシティプロジェクト*においてスタジアムとアリーナの整備をすすめており、令和6年に完成予定である。

II うまくいっていないこと、弱み、脅威

うまくいっていないこと

- サッカー、バスケットボール以外のトップレベルの試合をみる機会が十分に提供できていない。
- 平成26年度に開催された長崎国体では、長崎県は総合順位1位となったが、次年度以降の総合成績が低迷している（平成29年度が24位、平成30年度が41位、令和元年度が26位）。



III 取組方針

①スポーツを通じた地域活性化

- 長崎市をホームタウンとするプロスポーツチームに対する市民の応援機運の醸成を図ります。
- 長崎県スポーツコミッションと連携し、トップレベルのスポーツ大会や合宿の誘致を図ります。

②競技者の競技力の向上

- 各競技団体と連携し、ジュニア層の競技力の向上に取り組みます。

関連するSDGs



関連する計画等

- スポーツ基本計画
- 長崎市スポーツ推進計画



V・ファーレン長崎市民応援DAY

* 長崎スタジアムシティプロジェクト
(参照 P23)

G4 芸術文化あふれる暮らしを創出します

文化振興課

2025年度にめざす姿（なにが、どうなっている）

対 象	意 図
市民が	芸術文化を楽しみ、心豊かに生活している。

めざす姿を達成するための個別施策

- G4-1 芸術文化に触れる機会を創出します
- G4-2 市民の自主的な芸術文化活動の活性化を図ります

成果指標

成果指標	基準値	目標値
芸術文化を鑑賞する市民の割合	51.2% (R元年度)	55.0% (R7年度)
芸術文化活動を行う市民の割合	18.6% (R元年度)	20.0% (R7年度)

関連するSDGs



2025年度にめざす姿（なにが、どうなっている）

対 象	意 図
市民が	様々な芸術文化に身近に触れている。

現状分析と取組方針

I うまくいっていること、強み、チャンス

うまくいっていること

- 様々なジャンルのワークショップが増え、芸術文化に触れる機会が増えた。
- コロナ禍の中、市民文化団体や市民演奏家等と連携を取って、新しい生活様式にあった方法でコンサート等を実施することができた。
- 長崎ブリックホールやチトセピアホールなど、新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドラインを策定し、安全に施設を利用できるようにした。

II うまくいっていないこと、弱み、脅威

うまくいっていないこと

- 学校では、生の演奏を聴かせる機会が少なく、体験型の取組みも減っている。
- 自主文化事業*の若い世代の参加者が少ない。
- 長崎市公会堂の廃止や、長崎ブリックホールの経年劣化に伴う大規模修繕等により、市民が芸術文化に触れる機会が減少していることから、新たな文化施設の整備が求められている。

脅威

- 新型コロナウイルス感染症拡大により、一部の事業が実施できないなど多大な影響が生じている。



III 取組方針

①市民が身近に芸術文化に触れる機会の創出

- 子どもや学校を対象とした事業を継続して実施するとともに、子どもから大人まで幅広い市民が鑑賞・参加し、楽しむことができる自主文化事業の充実を図ります。
- 子どもや親子を対象にした事業を行うなど、子どもの頃から芸術文化に親しみ、楽しむことができる機会を拡大します。
- オンライン開催や新しい生活様式での事業実施などのノウハウを市民文化団体とも共有し、最終的にはコロナ禍以前の状態に戻すことを目標に、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、市民が様々な芸術文化に触れる機会を創出します。

②新たな文化施設の整備に向けた検討

- 新たな文化施設の早期整備に向けて取り組みます。

関連するSDGs



音楽アウトリーチ

関連する計画等

- 市民文化活動振興プラン
- 新たな文化施設基本構想
- アクションプラン

* 自主文化事業
長崎市が主催する芸術文化事業。

2025年度にめざす姿（なにか、どうなっている）

対 象	意 図
市民が	自主的な芸術文化活動を活発に行っている。

現状分析と取組方針

I うまくいっていること、強み、チャンス

うまくいっていること

- 市民文化団体と連携し、市民の芸術文化活動の発表の機会を設け、個人や団体が自主的に芸術文化活動を行う機会を創出できている。
- 音楽、演劇、舞踊、美術など様々な分野の市民文化団体同士が共同して事業を行うなど、ジャンルを超えたつながりができている。
- 市民文化団体等と連携し、子ども向けのプログラムを作るなど、音楽分野の普及に向けた新たな取組みを実施している。
- 市民文化団体や民間のアイデアを活かし、新しい形式の事業を実施している。

II うまくいっていないこと、弱み、脅威

うまくいっていないこと

- 長崎市公会堂の廃止に伴い、市民が芸術文化活動を発表する場が減少している。
- サポーターの新規登録が少なく、登録メンバーの高齢化により、ボランティアスタッフの登録者数が減少している。

脅威

- 高齢化により、担い手としての活動ができなくなる人が増える一方、人口減少により活動人口が少なくなる中、新たな担い手の確保が難しくなっており、芸術文化の担い手が不足している。
- 新型コロナウイルス感染症拡大により、市民文化団体等による芸術文化活動が制限されるなど多大な影響が生じている。



III 取組方針

① 市民参加・普及啓発型事業の展開

- 子どもや親子向け事業の充実や、参加者が少ない若者向けの事業を企画することで、芸術文化活動を再開したり、新たに始める人を増やします。

② 市民の自主的な芸術文化活動を活性化する取組み

- 芸術文化専用ホームページ「ながさき文化のひろば」を活用した市民文化団体の紹介などの情報発信、団体同士の交流につながる場の提供などにより、市民活動をより活発化させるとともに、芸術文化活動に関わる市民の増加につなげます。
- 部活動以外で芸術文化分野の全国大会等に出場する子どもたちの芸術文化活動を奨励することで大人になっても芸術文化活動を続ける市民を増やします。
- ボランティアスタッフの活動の魅力を高め、登録者数の増加に努めます。
- 最終的にはコロナ禍以前の状態に戻すことを目標に、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、芸術文化活動を行う市民や団体が活躍できる場を創出します。

関連するSDGs



関連する計画等

- 市民文化活動振興プラン
- アクションプラン



こども演劇体験教室